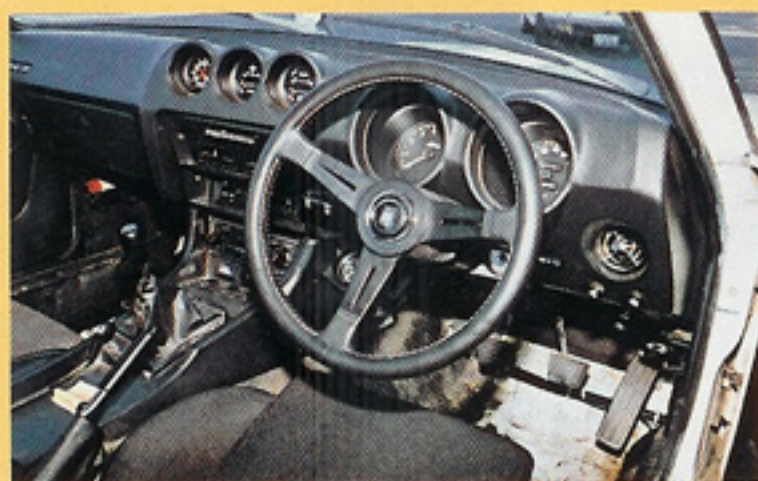




↓ F = 6 J × 14 ボルクに 185 / 70-14、R = 7 J × 14 に 205-14 アドバンを装着している。



野太い咆哮——

結果で、これとても、シフトの抵抗によるタイムロスはかなり見込まなければならぬ。

キャブが 44φ であること、カムプロファイルが適度であることにより、レスポンスのシャープさは抜群であり、低回転から吹上がりも良く、街中でも使い易い特性であった。

最高速はタイヤが H 規格なので、230 km/h を持つことは危険であり、一周のみ、それも計測地点手前北バンクの途中からの加速、それでも 234 km/h をマークしたのであるから立派である。

(M)

●テストデータ●

0~200m = 8.71秒

0~400m = 13.63秒

最高速度 = 234.15 km/h

チューン担当：カーショップ・チャレンジ ☎0721 (54) 5003

スポーツ・ステアリングを装着したインテリア



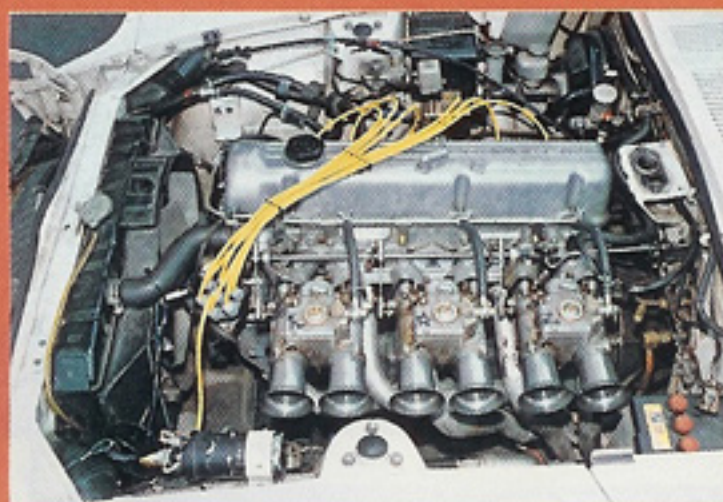
トップ
チューナー
大集結!

扱いやすい。2000rpm 周辺でもトルクは大きく、操作性も悪くない。

最高速は 231.51 km/h を記録した。3 & の Z としては一応 230 km/h 以上をマークしたので、合格ではあるが、あと 5 km/h は伸ばしたいところ。

タイヤは前後でブランドの異なる組合せで、前輪が 6 J リムに 185 / 70 HR の SP フォーミュラ、後輪には 7 J のリムに 225 / 70 HR 14 のアドバン H F-R が採用されていたが、H 規格のラジアルタイヤの保障安全速度は 210 km/h なので、V R 規格を装着すべきだ。

(Y)



L 28 型を 2950 cc までスリーブアップ、これにウエーバー 45 を 3 連装。

●テストデータ●

0~200m = 8.65秒

0~400m = 13.58秒

最高速度 = 231.51 km/h

オーナー：佐光 修一